

< 認知症対応型共同生活介護用 >

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
<b>合計</b>	<b>30</b>

事業所番号	4676100219
法人名	医療法人 健秀会
事業所名	グループホーム どんぐりの里
訪問調査日	平成 20 年 8 月 21 日
評価確定日	平成 20 年 10 月 14 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4676100219		
法人名	医療法人 健秀会		
事業所名	グループホーム どんぐりの里		
所在地 (電話番号)	鹿児島県霧島市隼人町真孝113-1 (電話) 0995-44-6934		
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島市城山一丁目16番7号		
訪問調査日	平成20年8月21日	評価確定日	平成20年10月14日

## 【情報提供票より】20年5月1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成14年3月25日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 7 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 7.8	

## (2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	軽量鉄骨	
	1階建て	1階 ~ 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	5,750(水道光熱費 円)
敷金	有(100,000 円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,050 円		

## (4) 利用者の概要(5月1日現在)

利用者人数	9 名	男性 3 名	女性 6 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名
要介護3	2 名	要介護4	0 名
要介護5	2 名	要支援2	0 名
年齢	平均 90 歳	最低 84 歳	最高 94 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	たまいきりニック・渡辺歯科医院
---------	-----------------


## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ショッピングセンターなどが並ぶ国道沿いから少し入った住宅地に運営母体のクリニックに隣接して当ホームが建てられている。隣には昨年の秋に開設されたデイサービスがあり、そこに集まる地域の方々と一緒にレクリエーションを楽しんだりして交流している。利用者全員が大正生まれである為に、職員はひとり一人のペースに合わせた支援を心がけている。運営母体のクリニックが隣接しているので、24時間いつでも医療連携体制が整っており、利用者にとっても家族にとっても人生最後の時をゆっくりと穏やかに安心して過ごせるホームとなっている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年度の要改善点については、評価終了後にミーティングなどで話し合っており、職員も改善について意識を持っており、改善された点もあるが、まだ継続中のものもある。地域とのつき合いについては、隣にデイサービスが開設された事でそこに集まる地域の方々との交流している。日常的な外出支援については、敷地内に畑を作ることで外に出る回数も増えており、希望に沿った支援をしている。同業者との交流についてはこれから行うところである。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者はミーティング時職員に自己評価の内容を読み上げ、何回かに分けて話し合い、職員の意見を反映させながら自己評価に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は平成18年度より不定期的だが行われている。今年度から市担当職員も参加してもらえるようになり、民生委員、家族代表、包括支援センター、管理者などが出席している。事業所の状況報告や外部評価についても説明することで、よりグループホームについて知ってもらう機会になっている。これからは、もっと地域の方々に参加してもらえるように働きかけ、幅広い立場の方々の意見を頂きながら事業所の運営に役立てられることを希望します。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族からの苦情については、第3者苦情担当者をたてており家族にも説明している。また、面会時に相談や意見を頂けるように声かけしている。家族からの要望については、申し送りノートに記載し全職員が共有している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	昨年の秋にデイサービスが開設され、そこに来られる地域の方々と一緒にレクリエーションを楽しんだり、ハーモニカや大正琴の演奏ボランティアが来た時など一緒に参加している。職員も地域との交流については意識をもっており、これから地域の行事などの情報を集めて積極的に地域との関わりをもたれることを希望します。

## 2. 評価結果 (詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の理念をわかりやすく8項目に分けて作られている。		地域密着型サービスの意義を理解し職員全員で話し合い指針となる地域密着型の理念を作られることを希望します。
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をリビングに大きく掲げて、いつも意識するように管理者は指導し、職員は理念を念頭においてケアできるように心がけている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会への加入はされていない。デイサービスに来られる地域の方々と交流したり、地域の行事に見学に行くこともある。		地域とのつきあいについては職員も意識しており、今後、地域の行事についても情報を収集し積極的に地域の方々と関わりを持つことを希望します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年度の改善点についてはミーティング等で話し合い改善された項目もあるが記録に残されておらず、継続して行っているものもある。今回の自己評価については、ミーティング時に管理者が項目についてふれ、職員の意見を聞きながら自己評価表を作り上げている。		今回の自己評価を通して管理者と職員は、地域とのつきあいについてまだ十分とは言えないことを確認しており、これからの働きかけに期待すると共に、前回の改善点については、改善シートなどを活用し継続的な話し合いが行われることを希望します。
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、家族代表、包括支援センター職員、管理者が参加して行われている。外部評価と自己評価について説明することで、改めてグループホームについて知ってもらう機会となっている。		地域代表の方々の参加を積極的に働きかけ、多くの方々の意見を頂きながら、運営に反映させていけるようにこれからの活動に期待します。

鹿児島県 グループホーム どんぐりの里

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	平成20年度8月から運営推進会議に市職員も参加できるようになり、高齢福祉課のグループホーム担当者と連絡を取り合い、わからないことのアドバイスをもらったりしている。		市町村担当者に事業所の情報提供を積極的に行い、情報を共有していくことで問題点や課題などの解決ができ、サービスの向上につながるように期待します。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や電話等で日頃の様子や健康状態などを報告し、金銭出納長も見てもらいサインをもらっている。不定期だがホーム便りも出している。個人ケア記録については、家族の要望があれば見てもらっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会については開かれていないが、面会時に相談・意見等を頂けるように声をかけている。家族からの要望があれば、申し送りノートに記載し全職員が共有している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職の場合にも引き継ぎ期間は十分に取っており、新しい職員を採用する場合はできるだけ介護の経験者を採用するように努めている。法人内の異動は行われていない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修が毎月行われており、それについての年間計画は作られている。外部研修についても参加する職員が偏らないように配慮し、ミーティング等で報告をしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加しておらず、同業者との交流は今のところ行われていない。		協議会を通して他のグループホームとの交流や、職員同士の相互訪問・勉強会などを行うことでサービスの質の向上に繋がれることを希望します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用者と家族に来所してもらい、他の入居者と一緒にお茶を飲みながら雰囲気を感じてもらっている。入所後慣れるまでは、家族の協力を得て馴染みの物を持ってきてもらったり、職員が入居者との仲を取り持つように配慮している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者の力量に応じて食事の手伝いをしてもらったり、野菜作りを教えて貰ったり、洗濯物を畳んでもらったりしている。昔の話を聞いたり、昔の歌を歌ったりした時に同じ時代を生きた利用者同士が涙を流して握手する姿を通して職員の心も和んだり、励まされたりしている。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>直接思いを伝えられる利用者とは日常的に会話を持ち希望や意向を把握している。困難な利用者の場合は日々の行動や表情から本人の意向を把握したり、家族からの情報を得ながら把握につとめている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ケアカンファレンスで担当者、家族の意見を良く聞いて、医師の指示や意見も取り入れながら介護計画書を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画に沿った短期目標は3ヶ月、長期目標は6ヶ月で見直しを行っているが、急な変化が生じた方については、その都度見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同じ敷地にある母体法人のクリニックと医療連携を密にしておき、往診や看護師の協力の下入院せずに点滴治療などを受けている。家族の要望に応じて通院介助を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人の希望するかかりつけ医となっている。家族の希望があれば、専門的病院の受診にも付き添っている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	住み慣れた環境で過ごさせてあげたいということで、すでに看取りを行っている。主治医、家族、看護師、管理者と話し合い、看取りについての同意書を得ており、終末期のケアについても意見が統一されている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者のプライバシーの保護や個人情報の取り扱いについて契約書を交わし、日々注意をするように心がけている。また、プライバシーを損ねるような声かけにならないように注意を払っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の年齢も高くなり身体的機能も低下しつつあり以前より散歩など自分から行きたいと言われる利用者が減ってきたが、ひとり一人のペースに合わせ、起床時間を決めず食事をゆっくり採ったり、外のベンチに座ったり、塗り絵や計算ドリルをしたりと利用者の希望に沿った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のテーブルを一行にし同じテーブルを囲んで職員と一緒に、会話をしながら食事を楽しんでいる。利用者はそれぞれの力量に応じて、台ふきや下膳、野菜の下ごしらえなどを手伝っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を希望される場合は、午前中だが月曜日から土曜日までいつでも対応している。拒否される利用者については、声かけのタイミングを気をつけている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のできること、テーブル拭きや洗濯物たたみなどの役割をしてもらったり、職員と一緒に花見に行ったり、塗り絵をしたり、みんなで一緒に昔の歌を歌ったりして、気晴らしや楽しみごとの支援をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの庭に小さいながら家庭菜園を作ることで、利用者が外に出る機会が増えてきている。水をあげたり、収穫したり、外のベンチに座って菜園を眺めたりと楽しみながら戸外に出れるように支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は外出傾向のある利用者について把握しており、出た場合には一緒について行くようにしている。玄関にはセンサーをつけているが、職員の人数が足りない時間帯などは、家族の了解を得て鍵をかける場合もある。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	母体法人と共に消防署の指導の下、防火避難訓練を行い、ホーム単独で夜間想定避難訓練を行っている。災害時に地域の方々からの協力を得られるような働きかけは行われていない。		火災時の避難経路が一箇所しかなく、その経路に障害物があるため避難が困難と思われる。スムーズに誘導できるように避難経路を確保されることを希望します。また、地域からの協力をいただけるように日頃からのつきあいを大切に、運営推進会議に地域の代表者に参加して貰える様に働きかけることを希望します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の管理栄養士に献立のアドバイスを受けて、バランスに配慮している。食事、水分の摂取量については記載し、把握している。便通の為にバナナとヨーグルトは毎日10時に摂ってもらうようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは吹き抜けになっており、天井からやさしい光が差し込んで来る。壁には利用者ひとり一人の似顔絵が描かれ、ソファやテーブルの気に入った場所で過ごしている。浴室とトイレが繋がっており、排泄の失敗にもすぐに対応できるように配慮されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口には楽しかった行事の写真が飾られている。それぞれが使っていたタンスや机が持ち込まれていたり、仏壇や壁飾りなどがあり、それぞれの個性にあった居心地よい空間となっている。		